

# 流鏑馬本番を終えて

全ての神事を終えた麗斗くんは、「目標としていた8本命中を達成することができて嬉しい。9月3日から数え切れないほど落馬しても、自分の目標を達成することに集中し続けて、やり残したことはない」と最後の練習で思えたことや、保存会の皆さんを始め多くの方のおかげで成功できたと思う。本番では楽しみながら射手を務めることができたので、ホッとしている。

「頑張りたい」と誇らしげに話していました。後射手を務めた宮本晴生君は「後射手として参加していると、また射手をしたいなと思った。成功してもらいたいと思いつけていた毎日だった。昨年、自分は緊張していたが、麗斗は緊張していなかったので本場に凄いと話す」と話していました。射手、後射手を務めた二人は達成感と共に「寂しさ」を感じる表情を浮かべていました。



宮本晴生  
平成23年度射手

益山麗斗  
平成24年度射手



麗斗君の父親の耕司さんは、「流鏑馬を通して、麗斗は成長したと思う。落ちないよう、的をはずさないようにと心配し、緊張していた。麗斗が無事役目を果たせた今、安堵感で一杯です」と話し、何ともいえない表情を浮かべていました。麗斗君の祖父であり、流鏑馬保存会会長でもある瞬一さんは、「9本中8本と言う最高の結果を残してくれた孫に感謝しています。保存会会長として、射手が孫であろうが心配そうな表情をするわけにはいかなかった」と話していましたが、その表情はとても優しい祖父の顔になっていました。

「両親、祖父との集合写真」

